

学び続ける教師コミュニティ

～ 次代の教育を創造する教員の学び合い～



2016 夏ラウンドテーブルの様子

2017

2.11 (土・祝)

- 10:00 ~ 16:00 -

福島大学 L 棟・S 棟

受付開始
9:30 ~

これからは、「何を知っているか、何ができるか(個別の知識・技能)」、「知っていること・できることをどう使うか(思考力・判断力・表現力等)」とともに「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか(主体性・多様性・協働性、学びに向かう力、人間性など)」が重視されます。この資質・能力を子供に育てようとするとき、教師自身にもこの3つの能力・資質が求められています。

私たちは、新しいものに構えたり避けたりしがちですが、その内容を理解し、これまでの実践を多様な視点で振り返り見直すところに新たな方策が見えてきそうです。午前はこれからの学校教育について平野誠氏の講演をお聞きし、午後のラウンドテーブルでは学校・地域・行政・大学関係者がテーブルを囲み、実践報告を手がかりに語り、聴き合い対話する中から、それぞれが新たな気付き、方策を見いだすことができそうです。

10:00 ~ 10:10 開会 10:10 ~ 11:50 講演 11:50 ~ 12:50 昼食

講師 平野 誠 氏

(文部科学省 大臣官房教育改革調整官)

講演テーマ

次代を創造する資質・能力とこれからの学校教育

<平野先生からのメッセージ>

現在、文部科学省では、新しい時代を生きる子供たちに必要な力を育む観点から、次期の学習指導要領等の在り方についての検討を行っているところです。その議論の状況等をご紹介しながら、今後の学校教育の在り方について共に考えていく機会となればと考えております。

<略歴>

平成7年、文部省(現文部科学省)入省。私学行政課課長補佐、大学振興課課長補佐、健康教育企画室長、大学入試室長などを担当するほか、福岡県教育委員会に出向し、高校教育課長及び義務教育課長を担当。平成27年10月から現職、学習指導要領の改訂に従事。

主催 福島大学人間発達文化研究科

後援 福島県教育委員会 福島県市町村教育委員会連絡協議会 福島県都市教育長協議会 福島県町村教育長協議会
福島県小学校長会 福島県中学校長会 福島県高等学校長協議会

お申込み
お問合せ

事前申込み

1月27日(金)までにメールまたは FAX でお申込みください。申込用紙は web ページからダウンロードできます。(当日受付も可)

<http://hdc.educ.fukushima-u.ac.jp/>

申込み・問い合わせ先

福島大学人間発達文化学類支援室
TEL 024-548-8101 FAX 024-548-3181
Mail:ningen@adb.fukushima-u.ac.jp

昼食：大会館内の生協店舗で購入することができます。生協食堂は休業のためご利用できません。

12:50 ~ 16:00 ラウンドテーブル

たっぷり話し合い、聴き合い、明日への「気付き」!

ラウンドテーブルという内容がよく分かりました。参加して大変良かったです。実践を聞くだけでなく、質問したり自分の実践を話したり、お互いに話し合うことで話し合いに深まりが感じられました。(小学校 50代)

実践を発表したが、みなさんじっくり聴いてくださり、実践の中の子どもの姿に価値を見出してくださったのがありがたかった。分かっていたようで見失っていた子どもの良さや学びについて改めて考えることができるともよかった。(小学校・13年)

本当に良かったです。高校の数学教師なんですが、小中の先生との交流、またがんばって教員を目指している現役学生や大学教授の方から様々な視点で報告に意見をいただき、自分の新たな視界が広がりました。(高校・13年)

思っていた以上の内容の深まり、どんどん本質的な所へせまる、ざっくばらんな話し合い、そして自分のこれからの気づき、実行することを実感しました。(教育行政 30代)

2016 夏ラウンドテーブルアンケートから



時間の限り、お互いにたっぷり話し合い聴き合うことを通して、改めて自身を振り返って日々の実践等について考えることができた。このような話し合い聴き合う活動を職場内でも大切にできれば、より良い職場集団として高まることが期待できるのではと感じた。(特別支援学校・22年)

学生ということで少し肩身が狭いかなと思っていたのですが、思う存分現場の声を聞くことができ大変貴重な時間となりました。(学生 4年)

ラウンドテーブルとは、校種や職種の異なる 5~6 人で 1つのテーブルを囲み、ファシリテータと報告者、聴き手が実践をじっくりと語り、聴き合い応答し合う話し合いの場のことです。語り手は、実践の歩みを振り返り自身の成長と歩みを問い直そうとします。聴き手は、実践の展開からより深く学び取ろうとします。実践の展開をもとに省察する場、個々の実践コミュニケーションを超えて実践の展開を探り照らし合う場です。ラウンドテーブルは、実践に関わる一人ひとりが語り手となり聴き手となる出会いの場であり、子ども、授業、学級、学校、地域を共有する仲間たちの集まりです。みんな、ほっこりします。笑顔になります。明日への希望がわかります。

ラウンドテーブルのマナー

実践の少し長い道のりをじっくり語り、じっくり聴き合います。

+

参加者は、学び続ける教師コミュニティのメンバーとして対等です。

報告者になってください。レポートは簡単で OK! 10 部ご持参ください。

継続して取り組んでいる実践を、A4 表 1 枚にプロットをあげて報告しました(例 1)。小学校外国語活動の実践を、A4 両面 1 枚に整理して報告しました(例 2)。校内研修だよりを持参された先生、レポートに資料を添えた報告もありました。レポートの様式は自由です。報告者になって学びが深まったという声がありました。ふだん取り組んでいること、今悩んでいること、うまくいったこと、うまくいかないことをありのままに語り、次への糸口を見つけることができます。

例 1

ラウンドテーブル資料

小学校 2年担任

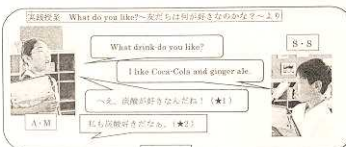
- 子どもたちに「ありがとう」と「ごめんさい」
 - 子どもであっても必ず、名前を言って「ありがとう」と「ごめんさい」
 - 指導のときに役に立つ
 - 子どもたちの気持ちを尊重
- ノート終了に一言コメント
 - 子どもたちのノートに終了目と表に一言コメント(今後の意欲に繋がるように)
- 丸付けはできるだけその場で
 - ミニテスト(漢字や計算)は挙手させてその場で丸付け
- 下位児童への指導
 - 個別指導が必要な児童に対して(通級指導でお世話になっているが、担任として)

例 2

教育実践福島ラウンドテーブル資料

2016.08.08

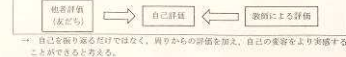
1 外国語活動で表める子どもの姿が現れた大切な大切な学びの場



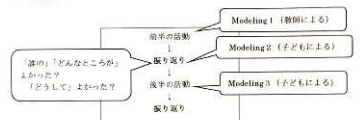
A・MとS・Sのコミュニケーションの中で、S・Sの発言を受けて、A・Mは感想を述べている(★) Reaction。さらに、S・Sのコミュニケーションを念頭にメモを記して振り返る(★) Reflection。結果として、S・Sの発言がきっかけとなり、自分語りだけでなく、S・Sの発言を踏まえて、自分の発言に気づくことができた。A・Mはリアクションをすることができた。さらに、そのようなコミュニケーションの場が、学習の場として機能している。

このように、S・Sの発言を受けて、A・Mは感想を述べている(★) Reaction。さらに、S・Sの発言を念頭にメモを記して振り返る(★) Reflection。結果として、S・Sの発言がきっかけとなり、自分語りだけでなく、S・Sの発言を踏まえて、自分の発言に気づくことができた。

前半の活動後の振り返りでは、コミュニケーションポイントをもとに振り返りだけでなく、前後のコミュニケーションをもとに振り返りを行うことができた。



2 実践授業から見た課題



前半の活動後の振り返りをさらに充実させることが必要。授業の終りの振り返りよりも、前半の活動後の振り返りを充実させること。コミュニケーションの場を築くために必要なだけでなく、その場には、互いのコミュニケーションのよさを振り返らせ、そこを通じて、自己のコミュニケーションについて見つめ直しを促していきたい。

3 外国語ワーキンググループにおいて示された、外国語教育における「長所や考え方」より

【外国語ワーキンググループの長所、考え方の例】
 英語の学習を通じて、言語やその背景にある文化を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、理解や考えなどを外国語で明確に理解した先遣りに表現し伝えたいこと

【深い学びと資質・能力の育成】
 思考力・判断力・表現力・自律的な態度に基づき、的確に理解し適切に伝えたいコミュニケーション能力の育成をする。

4 今後の見直し

- 目標と評価
- Learningを促すための手段
- 子どもの身近な対象(学校生活、家庭生活、地域)、他教科での学びの題材化
- 国際理解を重視した内容の充実
- 主体的な英語表現の育成
- 外国語活動教科書に対応するために

評価 (Yesできる)